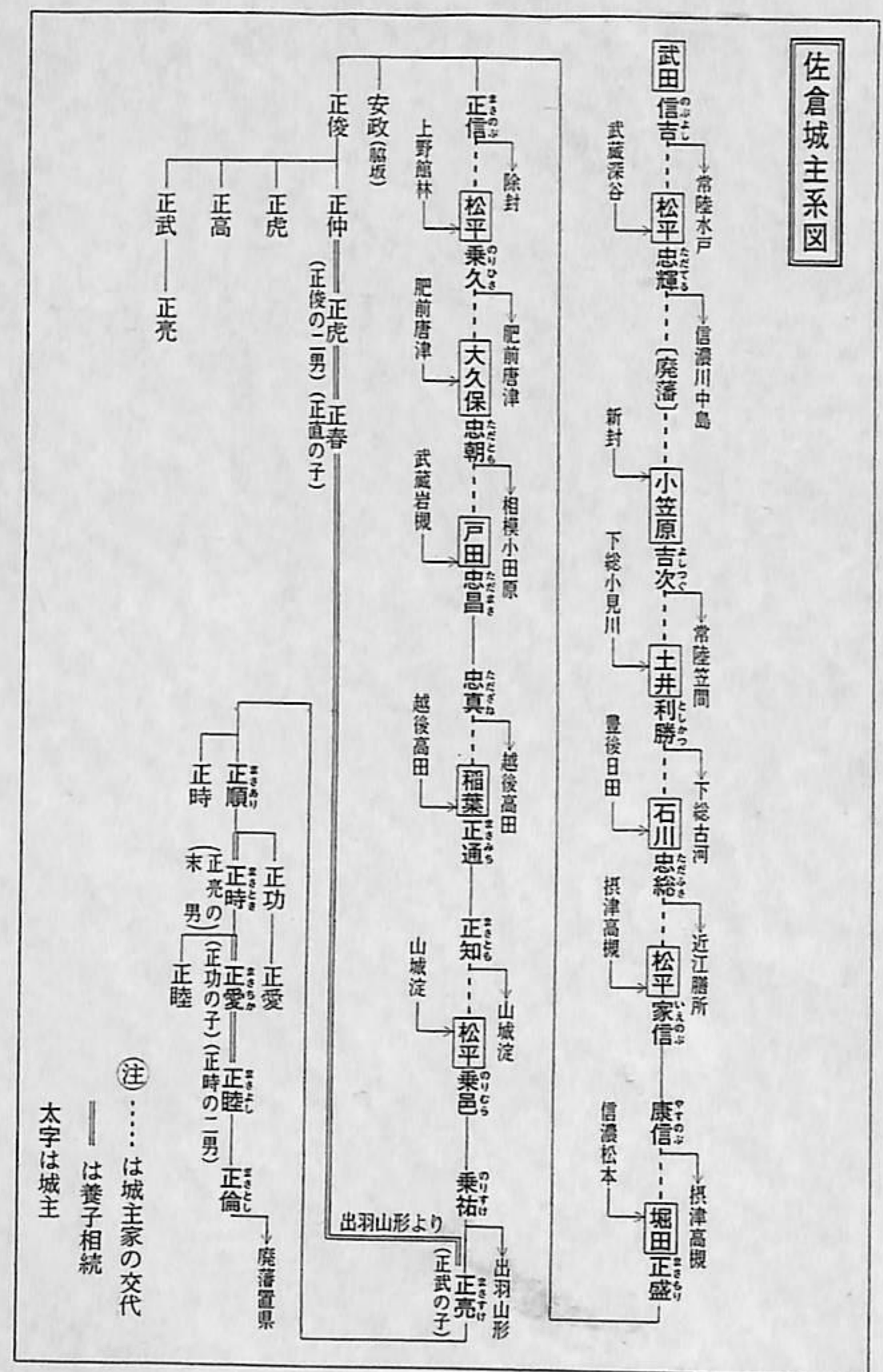
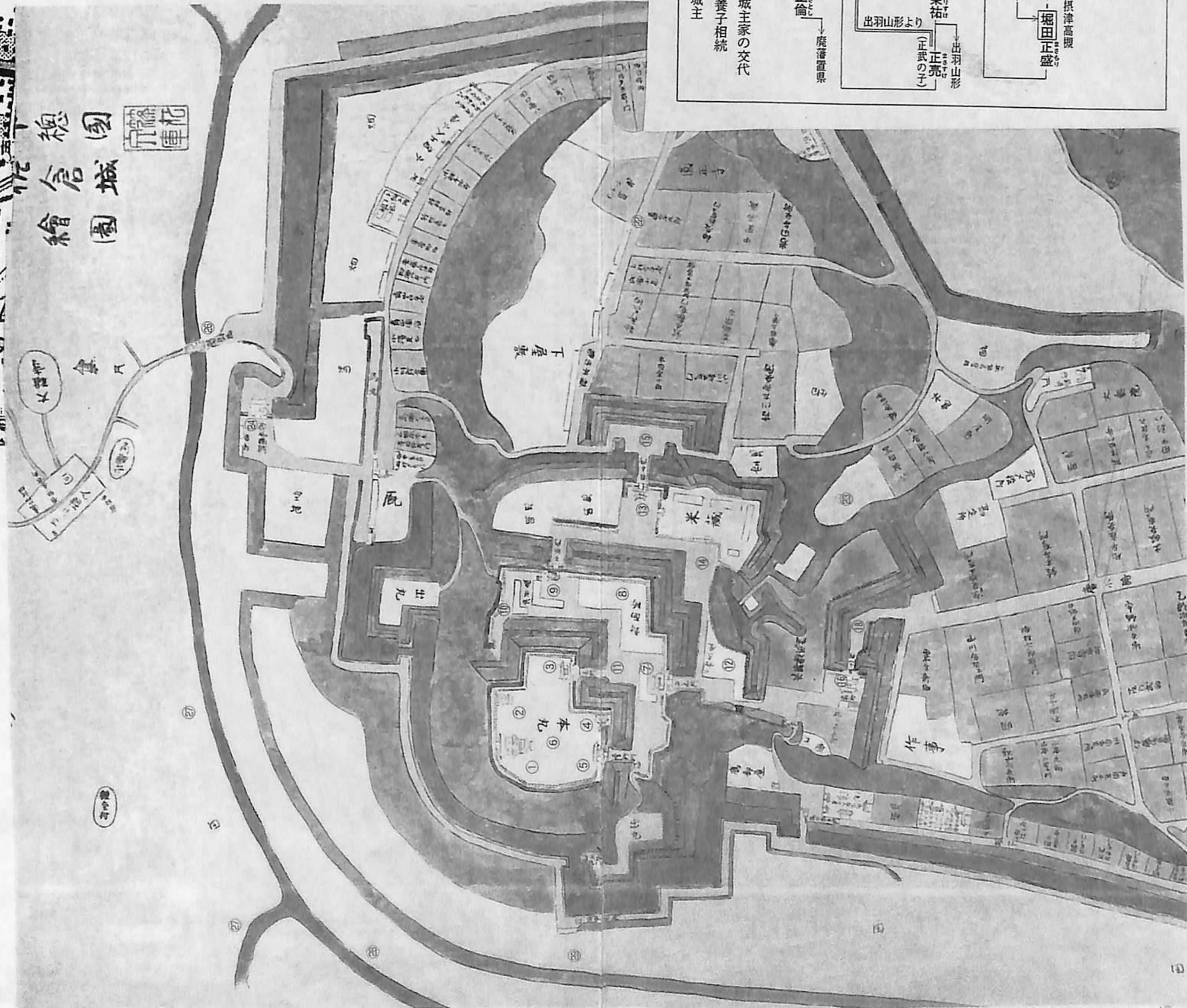


← 末 ← JR佐倉



本丸内の首字真

↓ 江戸中期の佐倉城図



城を歩く会4月定例会「佐倉城、本佐倉城」
江戸城からめ手防御の要め「佐倉城」を歩く
平成28-4-8 山岸弘明、石井 勇

お花見の雑踏をさけて、残り桜と「土の城」の魅力を満喫しよう

土井利勝が築いた関東最大規模の「土の城」

1) はじめに～地名と佐倉城

- ①地名の由来は桜、現在も関東屈指の桜名所として知られている。残念ながら満開はすぎました。
- ②佐倉城＝「名城100選」の1つ。関東特有、石垣、天守のない土の城だが、急こう配の空堀や本丸周辺遺構が現存、巨大角馬出しが復元されている。
- ③城の歴史＝慶長16年、本佐倉城大館館にあった土井利勝が徳川家康の命を受けて築城した「平山城（丘城）」で、「大坂の役」を挟んだ元和3年完成とされる。江戸城東面防御の拠点城として歴代老中クラス幕府要人を城主に迎え、うち土井利勝、堀田正盛、松平乗邑、堀田正亮、堀田正睦の5人は老中首座、大老として国政にあたった。城は印旛沼にそそぐ鹿島川と高島川に向かって突き出した比高30mほどの舌状台地先端部に立地、本丸、2の丸、3の丸、椎木郭などからなる「連郭式縄張り」、水濠、空堀、土塁などが高い精度で保存されている。
- ④土井利勝＝家康、秀忠、家光3将軍の重臣として幕府基盤を確立、佐倉城時代は老中10万石、次の古河で老中16万石、家康の落胤説も有力で子孫は古河7万石で明治維新におよんだ。
- ⑤前堀田家＝春日局の縁に連なった正盛が家光に重用されて成立したが、次の正信が幕政違反で廃絶、「佐倉惣五郎伝説」とも結びついた。子孫は宮川1万石で明治維新に。
- ⑥後堀田家＝前堀田家の分家。春日局の養子となった正俊が綱吉を5代将軍に擁立して古河13万石で大老に進むが綱吉に疎まれ最後は江戸城中で刺殺された。5代正亮の時佐倉11万石に転封、9代正睦は主席老中として開国を進めたが、井伊直弼と対立して失脚した。次の正倫のとき明治維新、一族の墓は市内の甚大寺にある。

2) 京成佐倉駅から「京成バス」乗車5分、佐倉城へ

- ①佐倉成田街道＝日光街道千住から分離、小岩市川関所から船橋、佐倉、成田へ
- ②新町通り＝佐倉城下の中心地、江戸、明治時代からの老舗が並ぶ昔からの商店街
- ③宮小路町バス停で降車



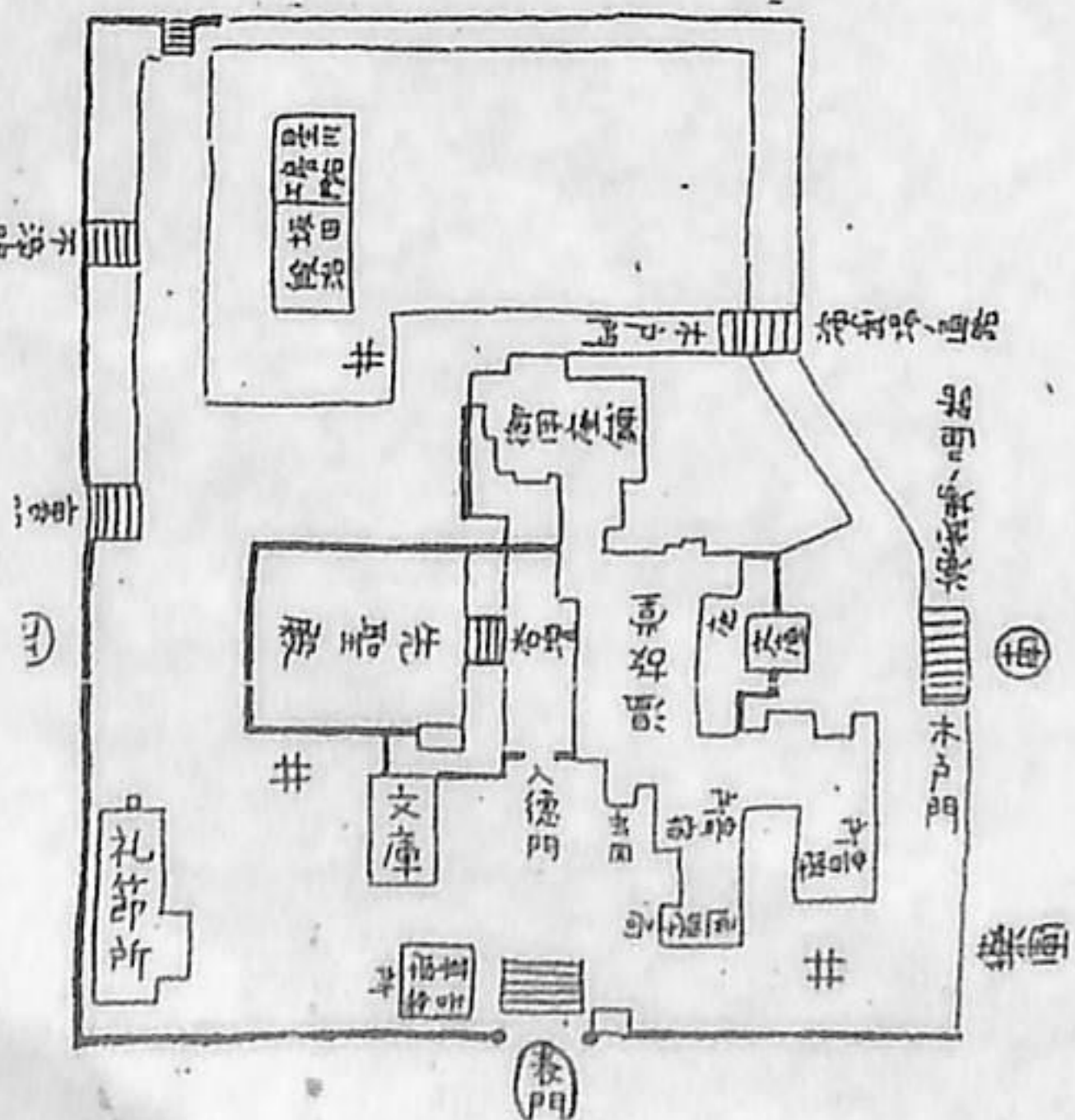
土井利勝



堀田正睦



京成佐倉駅
Keisei Sakura Station



麻賀多神社

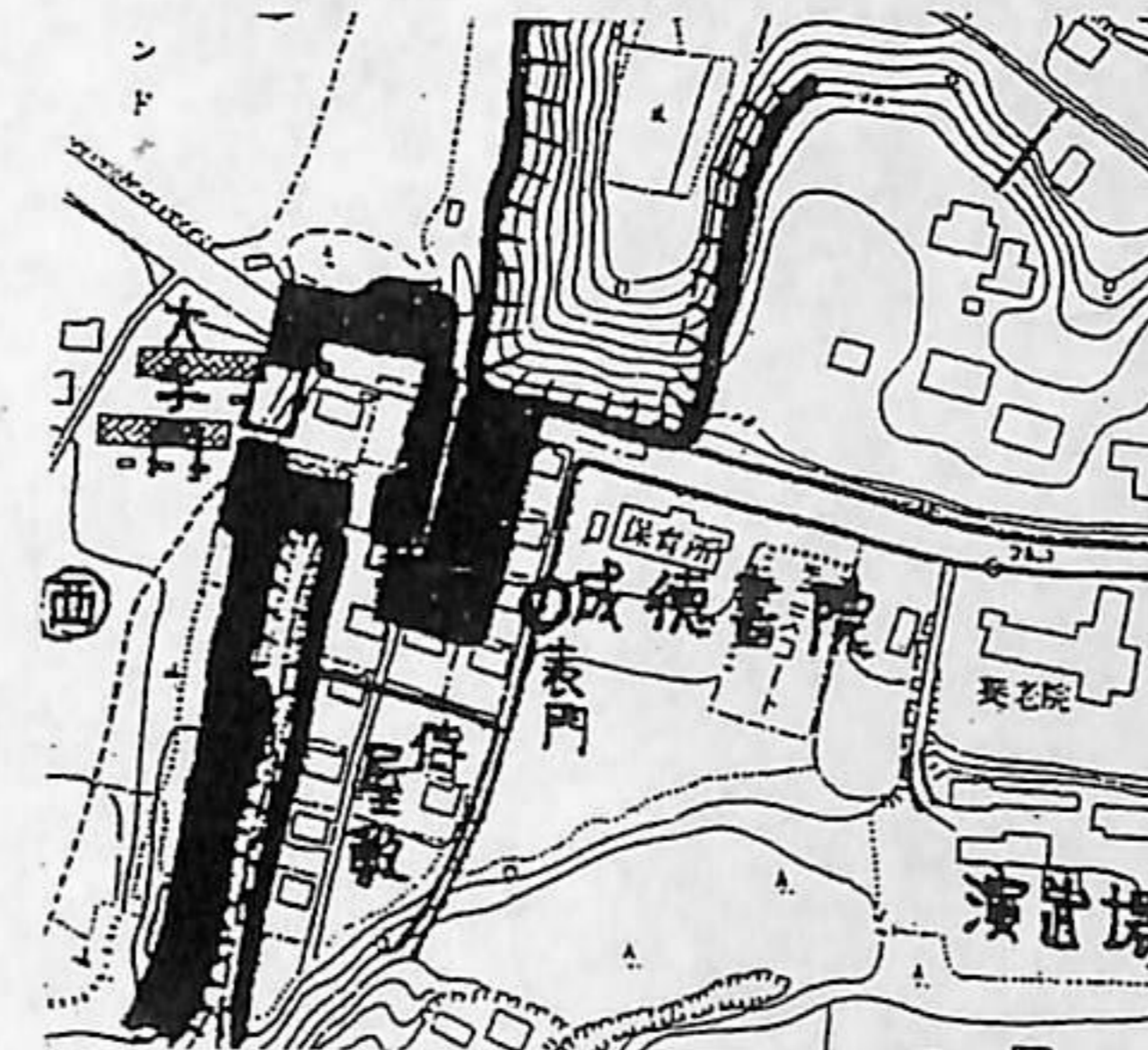


3) 宮小路を佐倉城めざす～麻賀多神社と藩校「成徳書院」跡

- ①札の辻＝高札場跡。宮小路は佐倉城への引き込み道。武家屋敷が続き城内へ
- ②麻賀多神社＝佐倉城の守護神、歴代城主が崇敬、10月の大祭は山車やみこしでにぎわう。
- ③藩校「成徳書院」＝6代藩主正順が創設、9代正睦が「藩政改革」の一環として「藩学振興」を進める。
- ④藩士子弟はかぞえ8～15才で藩塾（初等教育）、15～24才で成徳書院に学ぶ総合大学方式、公開教育、他藩士、町人の就学も認める。
- ⑤文武両道、武術＋朱子学。後期は砲術、医学、蘭学、英語も
医学局に蘭方医学者佐藤泰然を招聘し、「西の長崎、東の佐倉」とうたわれた「順天堂塾」に発展
- ⑥一術免許の法（文化8年正睦仰せ出され）＝成績不良者の俸禄カット
向後、文武、芸術未熟のものは知行のうち歩合をもって増引き仰せ付けられるべく候こと

4) 2階造り櫓門が立ちふさがる～大手門

- ①佐倉城大手門（古写真参照）＝屋根大入母屋造り、本瓦葺き、梁間（奥行き）4間×桁行き（奥行き）8間（7間1戸）、2階造り櫓門
- ②1階大御門（2間幅＝通路）、2階武器倉庫、射場（出窓形式、武者窓）
- ③櫓門前面に空堀、かぎの手道、高い土塁、外柵形左折れ
- ④時報鐘楼が付属、鐘は太平洋戦争供出、鉄砲弾薬に変わる



大手門首子瓦



大手門扉



39丸桁版跡



39丸



39丸



2の丸

5) 「ランペキ老中」正睦の隠居御殿～3の丸御殿と松山御殿

- ① 広小路=大手門から先が城内。一直線に広小路が続く。道両側に重臣邸で並ぶ。
- ② 会所跡=藩庁、町政を担当した役所
- ③ 3の丸御殿跡(運動広場)=文化2年以降の城主居住御殿。図面は存在せず詳細は未詳。
広場一帯に表向き(役所) 中奥(城主居住区) 奥向き(家族居室)が連なった
- ④ 幕末元治元年、老中を失脚した正睦が国元に戻った後の隠居御殿。晩年不遇のうちに死去した。
- ⑤ 佐倉 57 連隊碑

6) 曲折するカギの手道～3の丸御門と2の丸御門

- ① 空堀と曲折するカギの手道、前後の空堀は明治維新後、連隊が埋め立てた。
- ② 3の丸御門跡=これも古写真が残る。2階造り櫓門
- ③ 家老潮田監物、堀田兵庫屋敷跡=横矢の守り
- ④ 茶室三けい亭
- ⑤ 2の丸御門跡=土井利勝、堀田正盛らが居住。本丸は將軍専用の御成り御殿で城主が居住することはなかった

7) 日本最大の角馬出し～椎の木郭

- ① 椎の木郭空堀、堀切り跡
- ② うばが池=佐倉城最大の水の手。
うばが池伝説=乳母が誤って姫を池に落し責任を感じて入水したとされる
- ③ 馬出し=城門の外に付けられた防御設備。形状から角、丸、一文字馬出しなどがある。
角馬出しとしては日本最大、深さを2分の1で復元
- ④ 歴史民俗博物館を遠望。今回は入場しません



角馬出し

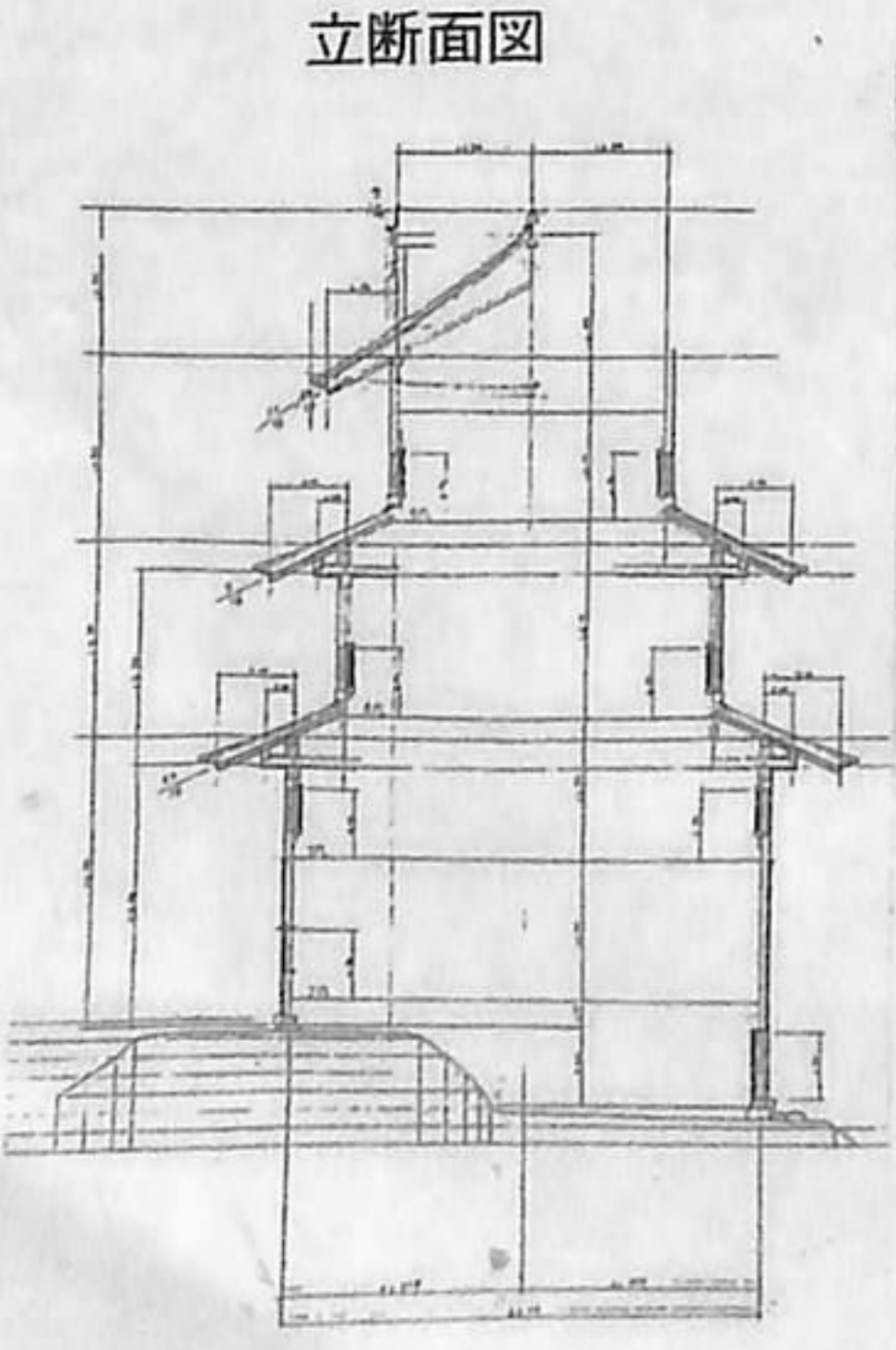


銅櫓

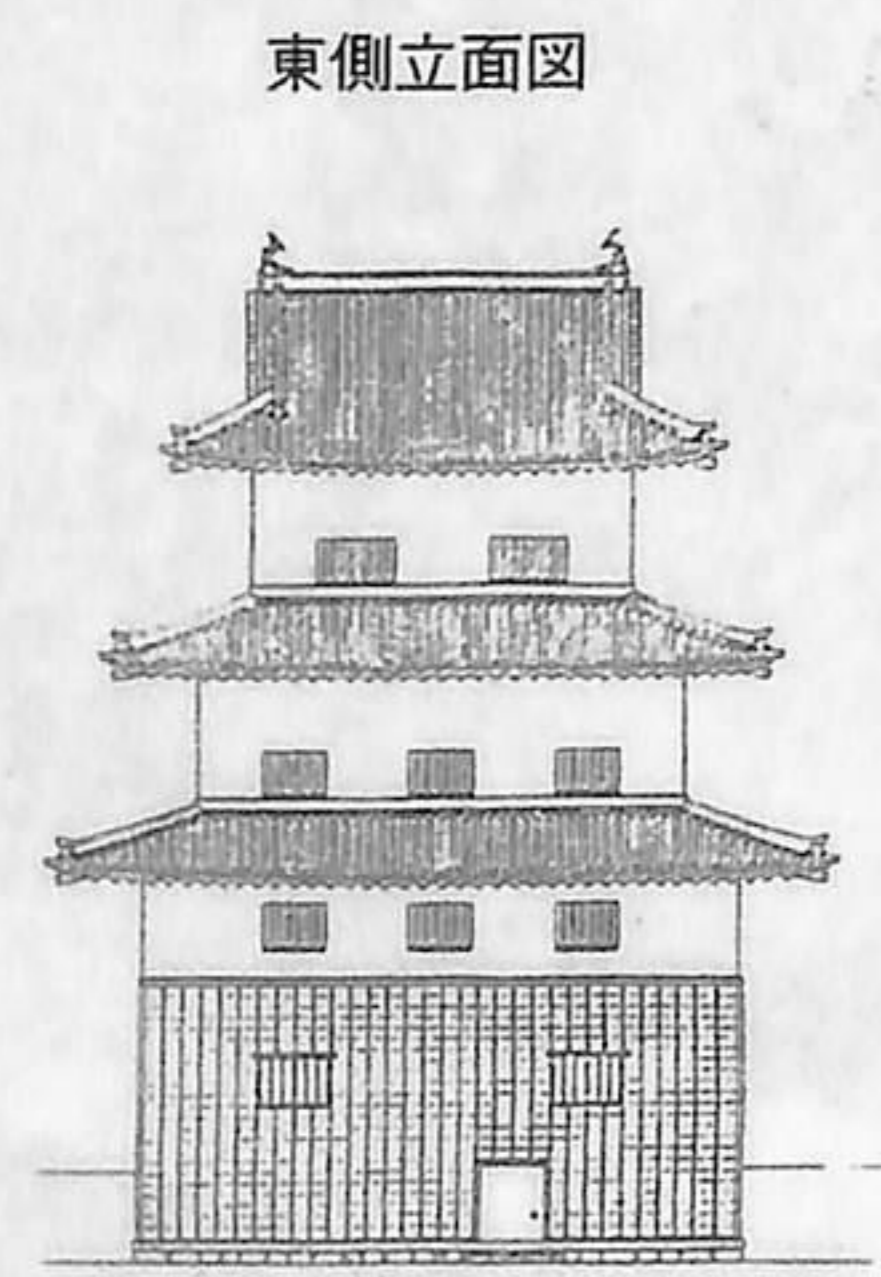


↓ 本丸

↑ うばが池

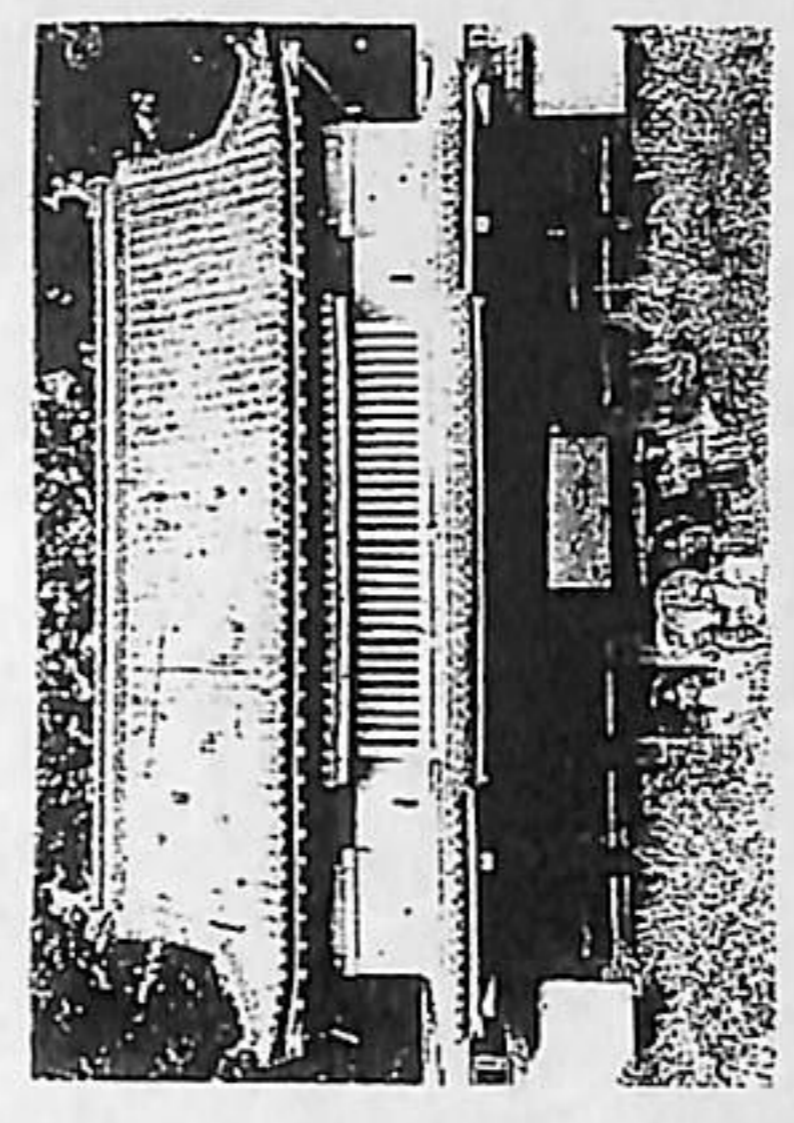


立断面図

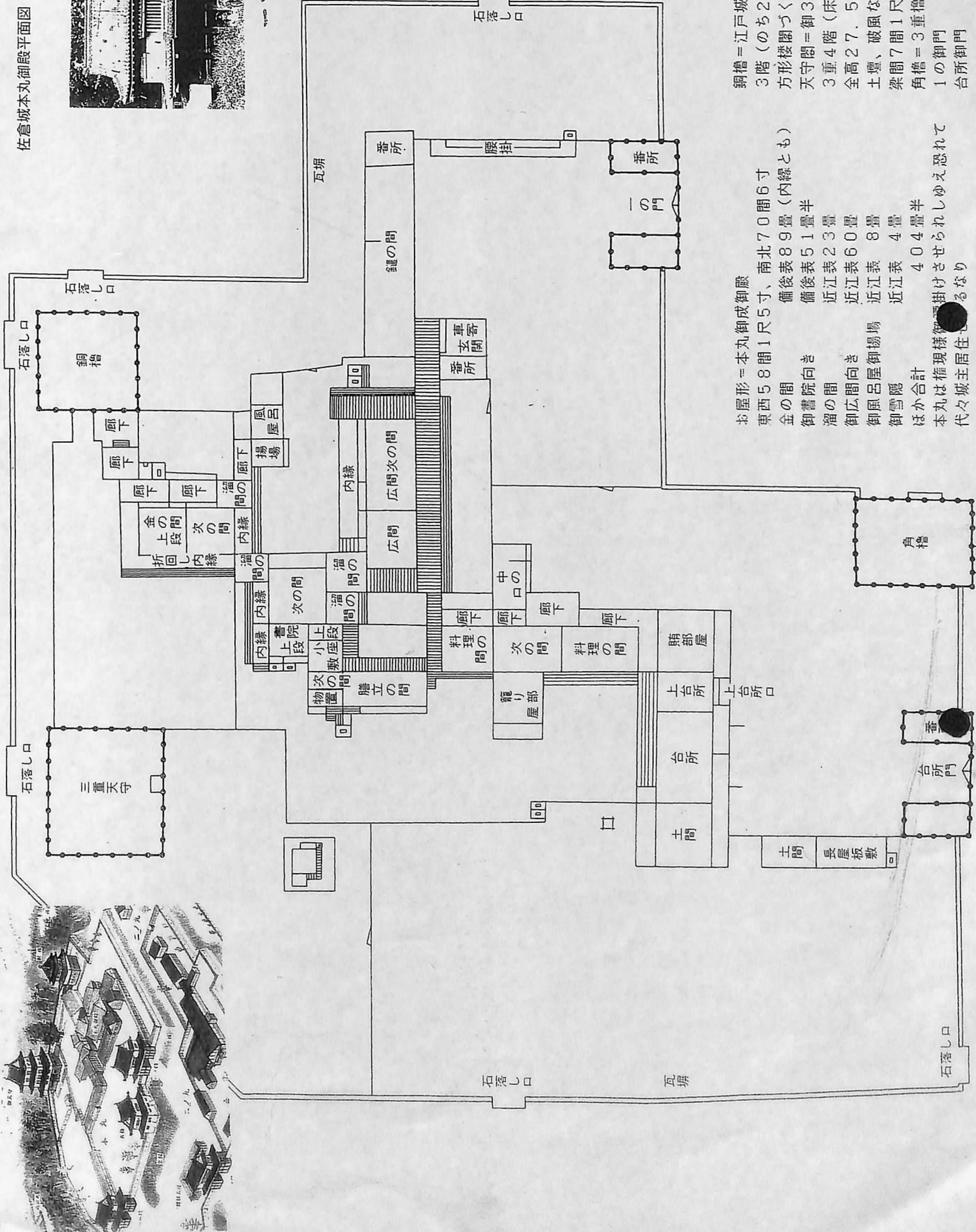


東側立面図

3階



佐倉城本丸御殿平面図



銅櫓 = 江戸城拝領櫓、ご金蔵
 3階 (のち2階に改築)
 方形楼閣づくりに銅屋根。四方6間
 天守閣 = 御3階、矢倉
 3重4階 (床下とも5階)
 全高27.5m (しゅち含む)
 土煙、破風なし
 梁間7間1尺余、桁行8間2尺
 角櫓 = 3重櫓、矢倉
 1の御門
 台所御門

お屋形 = 本丸御成御殿
 東西58間1尺5寸、南北70間6寸
 金の間 備後表89畳 (内縁とも)
 御書院向き 備後表51畳半
 溜の間 近江表23畳
 御広間向き 近江表60畳
 御風呂屋御揚場 近江表8畳
 御雪隠 近江表4畳
 はか合計 404畳半
 本丸は橋現様御掛せられしゆえ恐れて
 代々城主居住しなかり

7

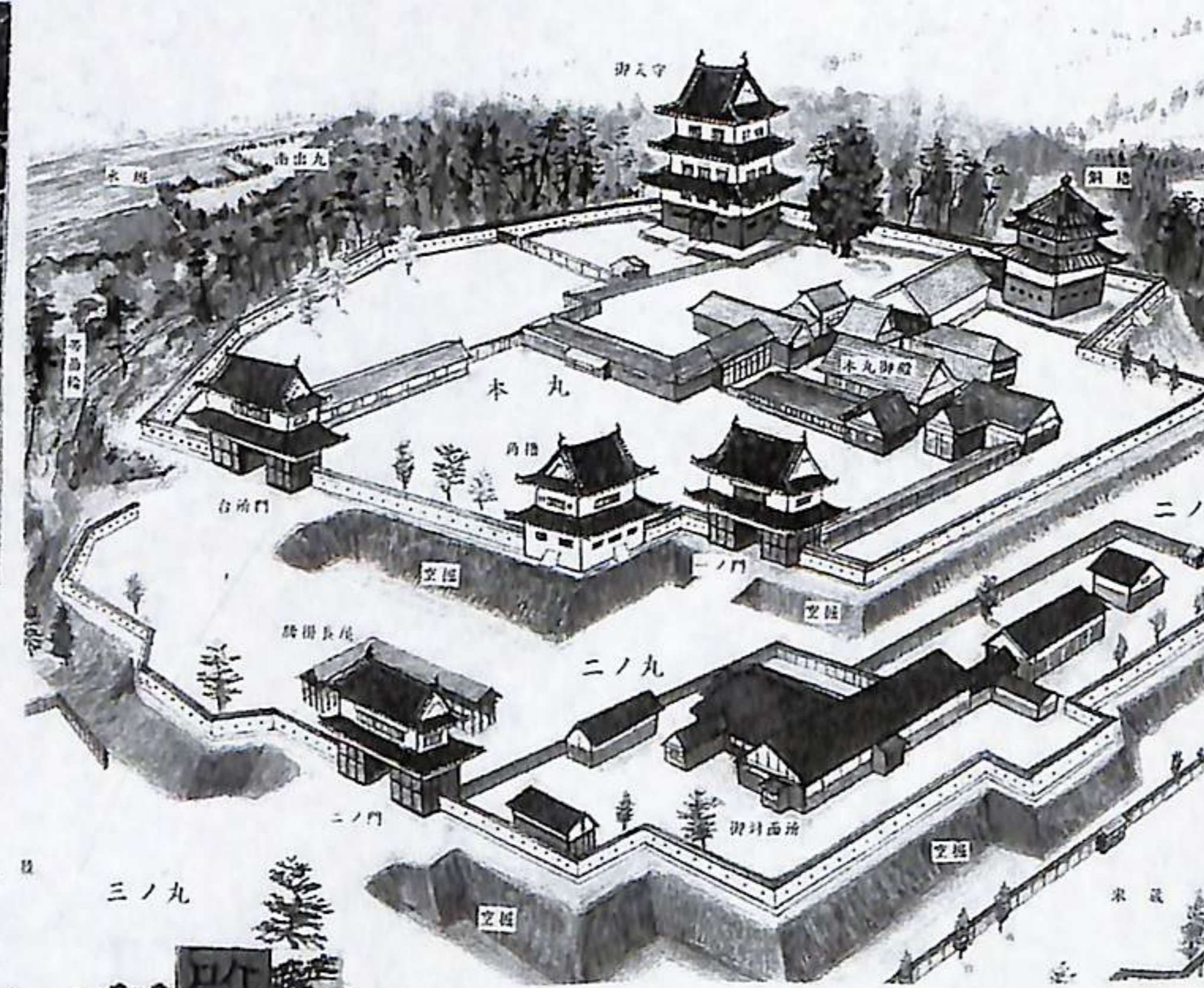
8) 徳川家康と秀忠も宿泊した御成り御殿～本丸

- ①本丸空堀＝人工的に築かれた深い空堀、石垣を凌ぐ急こう配は粘土と土を交互につき固めて築いた。土の城の傑作でもある。
- ②1の御門跡＝古写真参照。4間梁、桁行き8間、豪壮な独立型櫓門
- ③御成り御殿＝図面参照。將軍専用の御殿、城主は普段2の丸御殿、後期は3の丸御殿に居住、年始などの賀令のみに使用した。明治6年まで現存、廃城のため取り壊された。
本丸は権現様、御腰掛け（宿泊）られしゆえ、恐れて代々城主本丸に居住せざるなり（佐倉城旧記）
金の間（金箔襖絵つき89畳）、下段の間、書院上段の間、浴室、大広間、玄関（金すり石）
御成りは数百人規模で料理人も同行した
- ④本丸土塁＝本丸を一周、やや低まったがほぼ現存。
- ⑤銅櫓＝古写真参照。寛永6年江戸城西の丸工事総奉行を勤めた土井利勝が家光から秀忠隠居御殿敷寄屋を拝領して移築。方形楼閣造り。明治6年取り壊し。
- ⑥夫婦もっこく＝大坂の陣の時、利勝が持ち帰ったとされる。
- ⑦土塁上から城裏側の構えを遠望。鹿島川、高島川。印旛沼は後退して見えない。
- ⑧御3階＝水戸、古河、関宿など関東独特の天守相当櫓。徳川譜代、江戸城支城を意識した飾破風の質素な文化33階櫓。3重半地下とも5階、入母屋屋根、本瓦葺き、しゃち、全高27.5m
文化3年、侵入した盗賊の灯火不始末で焼失、以降再建せず。形骸化した警備体制
- ⑨台所不明門跡
- ⑩時間許せば有志で帯曲輪、からめ手清水門、水堀へ
- ⑪本丸周辺で現地解散。京成利用者は歴博の下、国立博物館バス停へ、JR利用者は往路を逆走して宮小路町バス停へ。

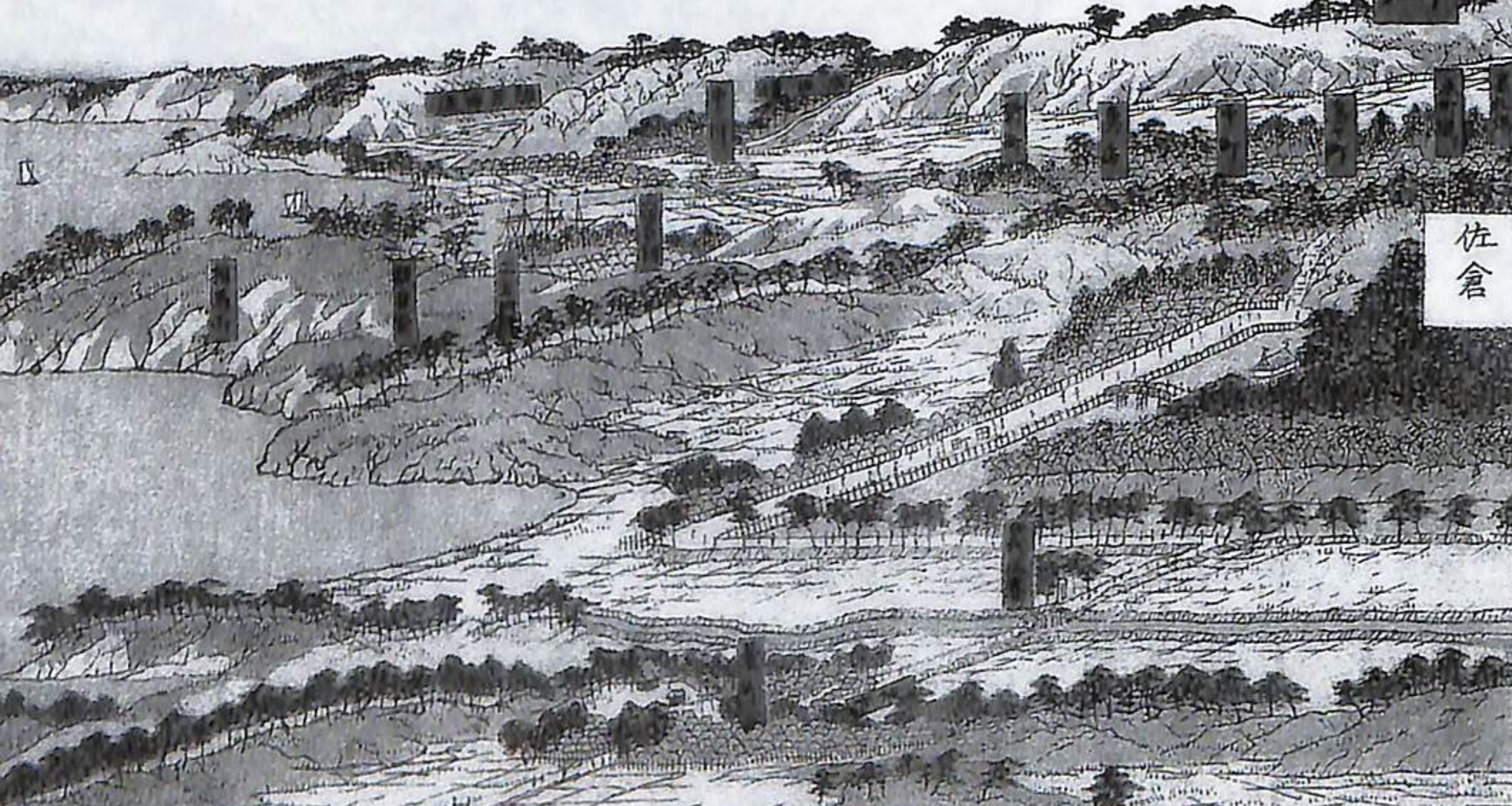
以上



出丸



内部イメージ図 →

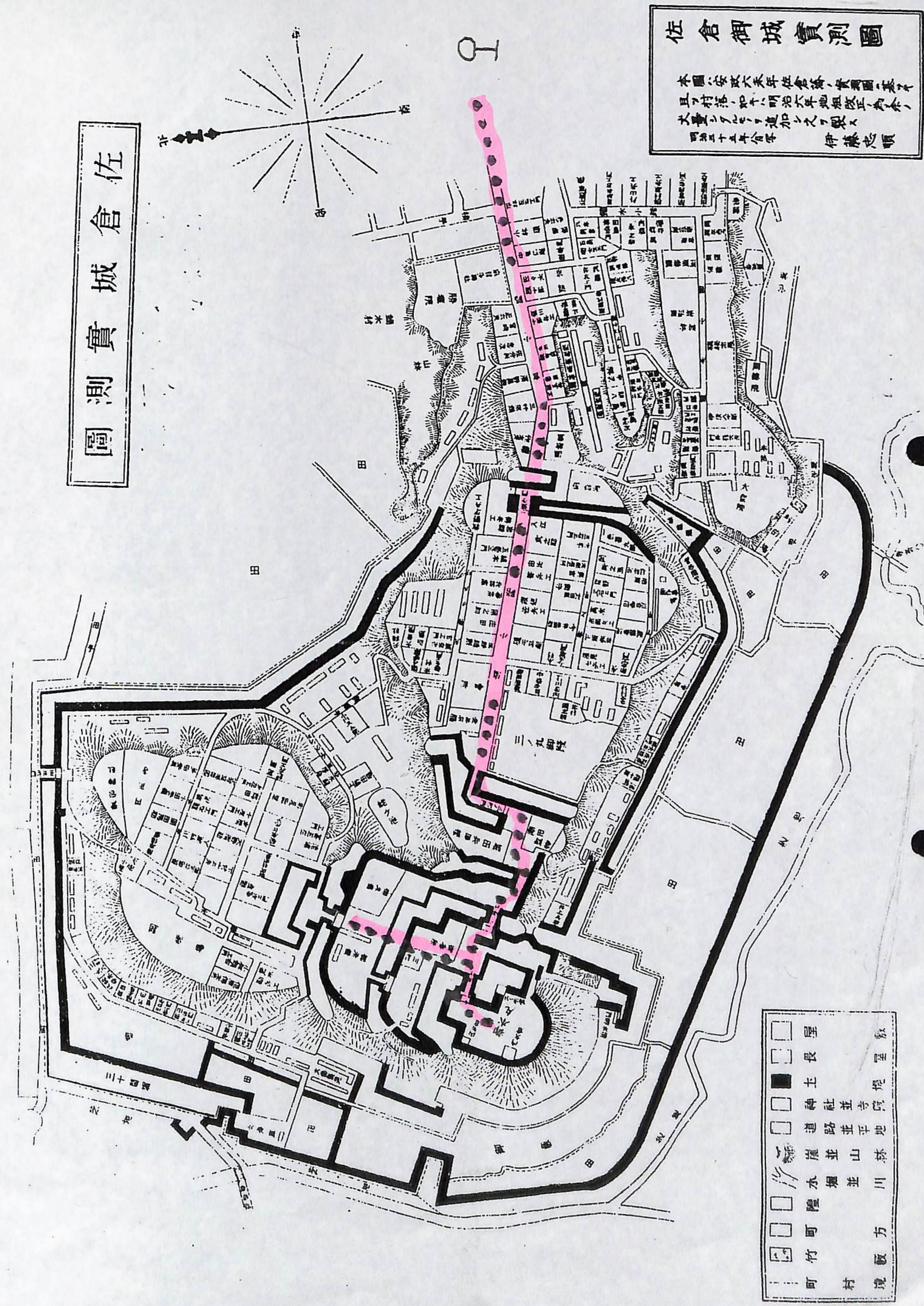


佐倉



涼水牛ヶ川

佐倉城實測圖



佐倉御城實測圖
 本圖は安政六年佐倉藩、實測圖基本
 且村落、地す、明治六年地租改正基本
 大書より取り直し之り取入
 明治三十五年分家 伊藤忠順